

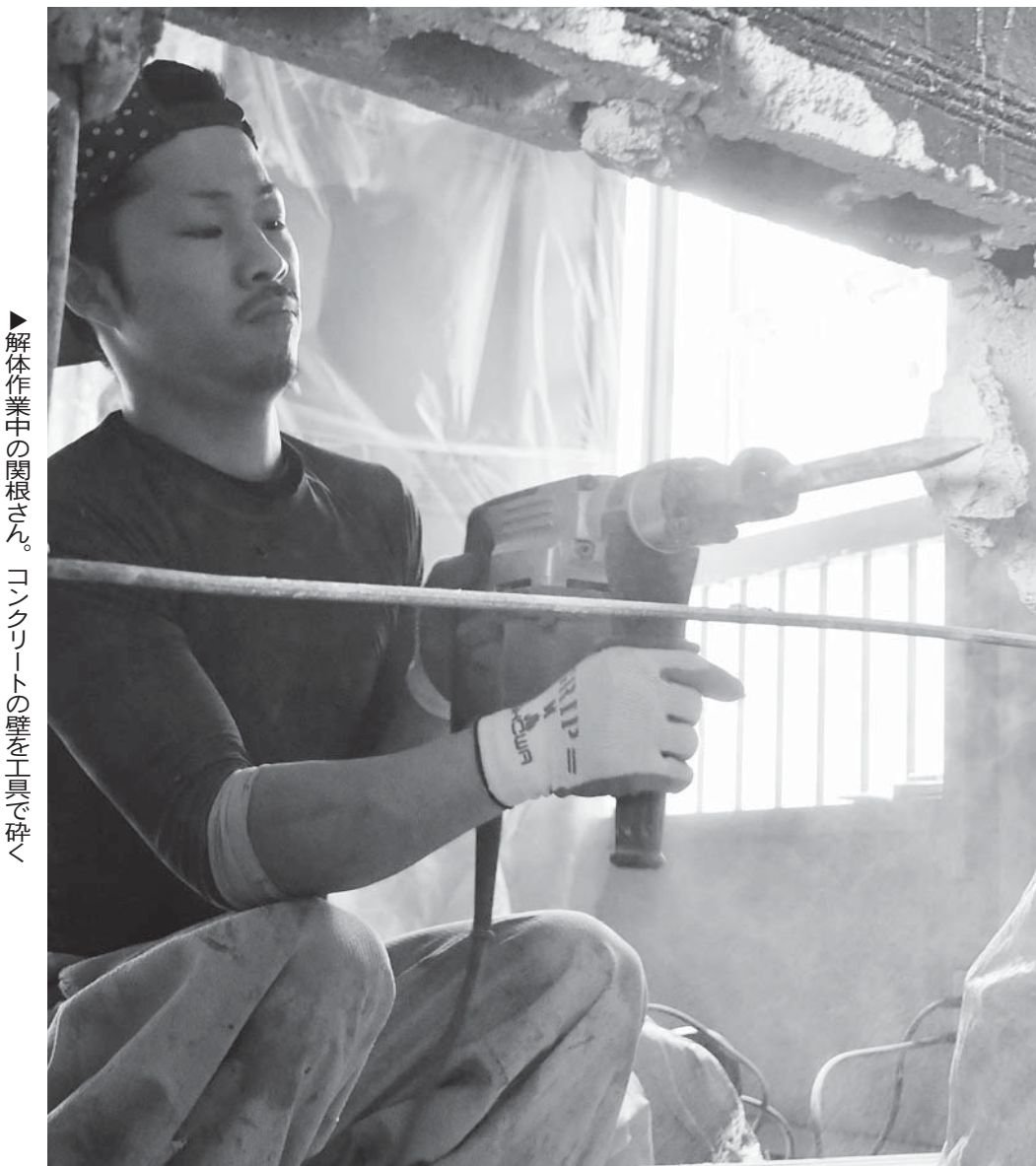
民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsin@dylj.or.jp

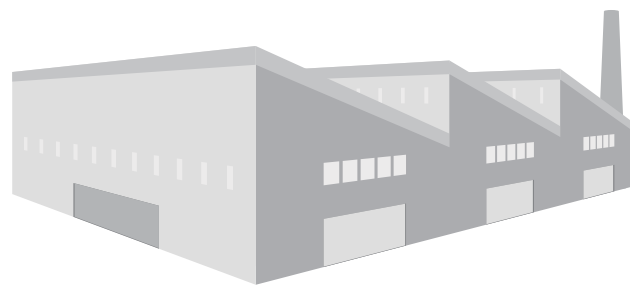
見どころ

- 校則おかしくない? (6、7面)
- 人権侵害の強制不妊手術 (3面)
- 南北首脳会談の歴史的意義 (10、11面)

社会を支える中小企業



▶解体作業中の関根さん。コンクリートの壁を工具で砕く



▶関根さんが普段から使う工具。2年ほど使っている

やりがいを感じて働きたい

全国6620万人(総務省労働力調査・2018年3月時点)の労働者の圧倒的多数が中小企業で働いています。経済の土台を支える中小企業で働く青年に、中小企業ならではのやりがいや悩み、働き方に対する思いについて聞きました。

(文中は一部仮名、塩田悠玄記者)

「ありがとう」にやりがいを感じる

夏を迎えた5月中旬、に同行しました。

建設現場で大工として働く、職人歴7年目の関根さん(22)の仕事は「解体作業は、肉体的な」と言われた時にやりが

疲労が大きい。建設作業を「ありがとう」を感じる。関根さんはこれまで、保育園や専門学校、マンションなどさまざまな建設に携わってきました。高さ40メートルの高層マンション建設にも関わったことがあります。「マンションを建てる時は、鉄筋や内装などいろいろな専門職の人たちと関わるので、コミュニケーションが重要。連携

技術の継承で丁寧な家づくりを

生活の基盤となる衣食住の「住」を支える大工は、社会と深い関わりを持つ仕事の一つです。関根さんは、「自分たちのような職人がいるからいろいろな建物が建てられると思う。どんなに精密になり機械化が進んでも、最後は人間の手でやらないとうまくいかない。そこには職人としての責任と誇りを持っている」と話します。

「大工の技術は正解がない」と関根さん。「大工が10人いたら、10人ともやり方が違う」と仕事の奥深さを話します。「自分の親方は丁寧に仕事をする人なので、自分もそういう職人を目指している」と話す関根さんが今一番身に付けた技術は、「階段を作る」と答えます。「大工の世界では、階段をかけられるようになって一人前と認められる。階段は一段目の

▲壁とタイルを剥がすなど、一つひとつの作業に技術と経験がいる



められる。階段は一段目の(2面に)つく(